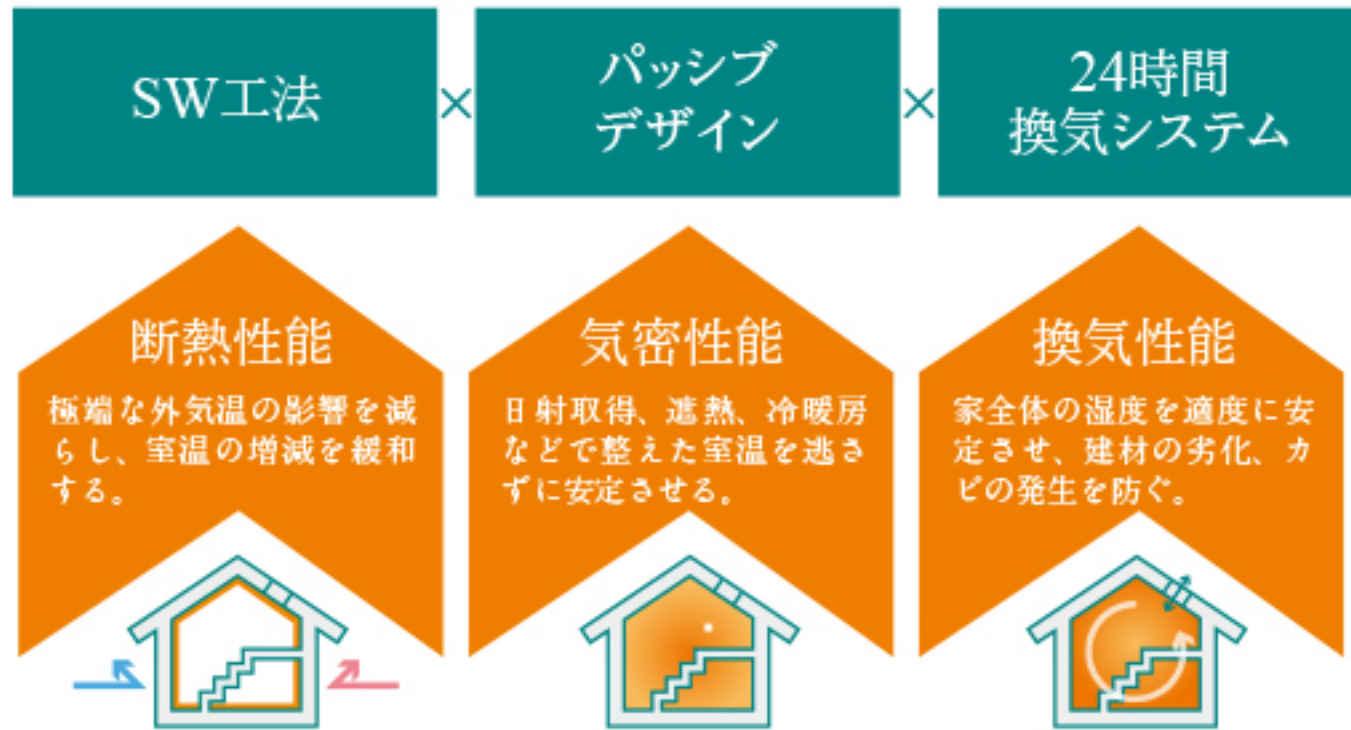


数字で伝える家づくり -1

高い基本性能といっても聞くだけでは分かりにくいと思います。

そこで弊社では、設計図の段階で住宅性能を試算、計測し数字でお見せ（全棟シミュレーション）することで、性能をより分かりやすく、詳細にお伝えしています。



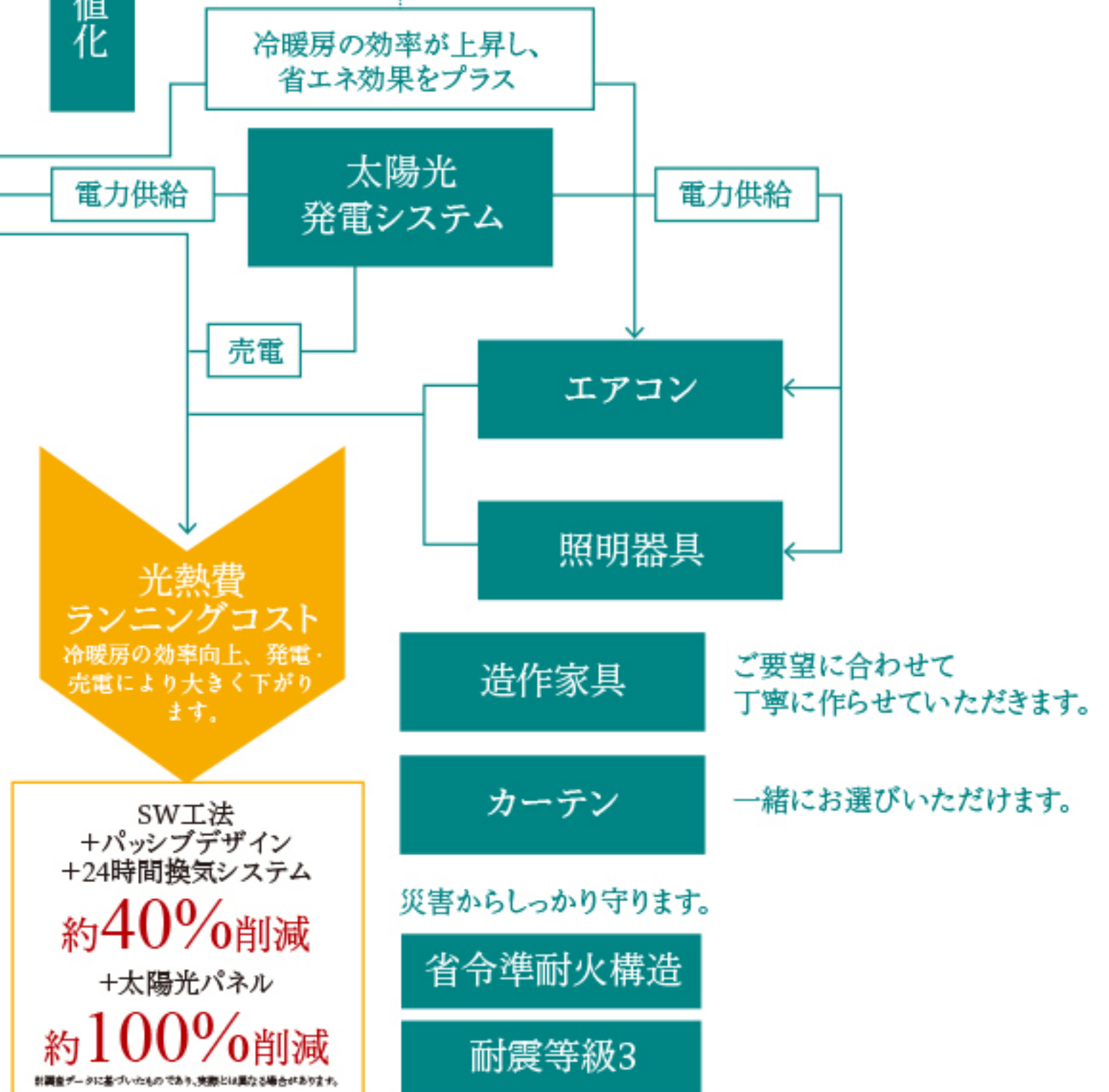
住宅性能を数値化

【Q値】熱損失係数^{*1} 発生した熱がどれだけ失われるかを示した数値。 数値が小さいほど断熱・気密性が高い。	建築省エネ法基準 2.7w/(m ² ·k)以下	弊社基準 1.5w/(m ² ·k)以下
【U_A値】外皮平均熱貫流質 外皮面積1㎡あたりの熱損失量の平均を表した数値。 数値が小さいほど断熱性能が優れています。	建築省エネ法基準 0.87w/(m ² ·k)以下	弊社基準 0.5w/(m ² ·k)以下
【C値】相当隙間面積 床面積1㎡あたりの建物の隙間を表した数値。 数値が小さいほど隙間が小さく、気密性に優れます。	高气密住宅基準 2.0cm ² /㎡以下	弊社基準 0.5cm ² /㎡以下

*1…Q値は現在UA値になりましたが、住宅性能として分かりやすいこともあり、弊社では測定を行なっています。

住宅性能を数値化

【η_{HF}値】暖房期の平均日射取得率 暖房期の日当たりを取り入れる工夫の数値。 数値が大きいほど室温の上昇を助けます。	建築物省エネ法基準 0.87w/(m ² ·k)以上	弊社基準 1.5w/(m ² ·k)以上
【η_{AC}値】冷房期の平均日射取得率 冷房期の日当たりを減少させる工夫の数値。 数値が小さいほど無駄な室温の上昇を防ぎます。	建築物省エネ法基準 2.7w/(m ² ·k)以下	弊社基準 1.0w/(m ² ·k)以下



削減率データに基づいたものであり、実際とは異なる場合があります。